

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	平成24年5月25日	評価結果確定日	平成24年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>【①利用者本位のケアを心掛けている。】利用者の能力・趣味・趣向・生活の継続性等を考慮した上で、日常生活の支援を行なっています。洗濯物干し、食事のつぎ分け、お菓子作り、買い物や新年会・誕生会、地域行事に参加したり、ドライブと希望を聞きながら進めています。</p> <p>【②家族との連携】面会時に報告・相談を受け、カンファレンスを通じて連携を取っている。また、新年会や花見など家族参加の行事を行ない、職員・家族間の交流を図り、信頼関係を構築しています。</p> <p>【③職員の質の向上】事業所内・法人内では年間を通じて計画的に職員研修を実施し、法人外では勉強会に行く機会を創出し、職員の知識・技術の向上に繋げています。また、他事業所との連携・情報交換や交流も推進し、職員の質の向上を図っています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成24年6月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>住宅街の中にある事業所で母体の特養に隣接している。木の温もりを生かした暖かみのある和やかな雰囲気である。「全ての方の人格を尊重し、共に歩み、共に喜び、一人一人が主体性を持って地域生活が継続できるように支援する」という理念を掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を管理者や職員が一同となって心がけ実践している。利用者一人ひとりが安心して生きがいを持って暮らせるように様々な工夫をしている。地域交流にも力を注いでいて、家族や地域住民から信頼されている様子が随所に伺える。質の高いケアを実施するため職場環境を整え職員教育も充実している。介護計画や記録も具体的で適切になされている。管理者と職員間の風通しがよく、常にサービス向上のため独自の工夫や取り組みを行い、着実に実行している。</p>

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「すべての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活が継続できるよう自立のお手伝いをさせていただきます」を共有できるよう職員の名札にいれ、それが実践に繋がるよう朝礼、会議で理念を唱和し会議やカンファレンスを通じてサービスの質の向上に心がけている。	事業所独自の理念に「地域での生活を継続できるように…」など地域密着型の視点がある。理念の共有化、意識化はミーティングや朝礼時の唱和で行なわれ、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ近所の方々に挨拶したり、買い物や近所のクリーニング屋さんに出しに行ったり、地域の掃除に参加したり、夏祭り、文化祭、敬老会、運動会など地域の行事にも参加している。	町内会に加入し、地域の清掃活動・敬老会に参加している。事業所主催の夏祭りや地域の公民会で行われる文化祭に利用者が作成した作品を展示する等、地域住民との交流がある。幼稚園・小学校の慰問や中学校の職場体験、専門学校の実習受け入れなども行っている。夏には子どもたちが蝉取りに来るなど地域社会に溶け込んでいる。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、いきいきセンター福岡の担当者に地域への訪問を依頼したり介護教室を実施するなど地域の方に学んで頂く機会を設けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、民生委員、包括支援センター職員などの参加を経て、サービスの提供状況を報告している。近隣の住民や入居者様の知人などの参加もあり、多彩な意見が寄せられサービス向上に役立っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。メンバーには利用者・家族・民生委員・老人クラブ代表・市町村職員・包括支援センター職員・近隣の店舗等が参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。会議で出た意見は職員全員で共有し、積極的にサービス向上に活かしている。会議録も具体的に記載している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関（いきいきセンター）へ出向き、困難事例の相談をしたり、介護保険制度についての疑問点をうかがったり、運営推進会議に参加して頂き、助言を得たりとわからない事があったら随時連絡している。	行政や地域包括支援センターとは気軽に相談が出来る関係を構築している。困難事例や介護保険制度についての疑問点を確認する等の取り組みを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置されており、委員を中心に取り組んでいる。職員も、法人内の研修会で身体拘束に関して正しい知識が得られるよう研修計画に入っている。	日中居室や玄関は施錠していない。自由に入出入りして散歩や外出を楽しむ利用者の姿が見られた。職員は利用者の外出傾向は把握し、行動を妨げない配慮をしている。法人で身体拘束委員会を設置し、拘束を行わず安全に暮らせる取り組みを工夫している。身体拘束に関するマニュアルや研修も整っていて、研修記録や報告書も整備されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のグループホーム会議、カンファレンスなどさまざまな場で言葉遣いや態度に問題が無いかに注意しあっている。施設内（法務局に来てもらい）で勉強会も行ない、参加できない職員も資料を閲覧し、知識の向上に努めており、外部研修にも参加している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、法人内での研修や勉強会で制度について学び、理解を深めている。現在までは活用している事例はないが、玄関に自由に持ち帰ることが出来るようパンフレットを準備し、必要時に説明しやすいように準備している。	事業所は職員が成年後見制度を理解し必要に応じた相談ができるように、外部研修・内部研修・勉強会を行っている。玄関には自由に持ち帰ることが出来るようパンフレットを準備し、必要時に説明できるようにしている。研修記録や報告書等も整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが非常に大事なので、申し込み→面談→契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら、他職種による説明を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると同時に、玄関にご意見箱を設置している。家族の面会も多く、その際意見が気軽に職員に言えるようご家族とのコミュニケーションを心掛けている。行事にも家族の参加を促し、意見を聞いたり、アンケートを実施して。出された意見は職員間で検討し運営に反映している。	利用者の意見・要望には管理者・職員共に耳を傾けている。利用者の希望で御寿司バイキングを開催する、外の木陰にベンチを設置する等の取り組みがある。家族会を年2回開催して家族同士の交流が和やかに出来るよう工夫している。日頃の家族の訪問時も職員から利用者の状況等を話し、要望等があれば、職員間で検討し運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議、申し送り、などで意見や提案を聞き運営に反映させている。また、タイムカードの横にご意見ポストを設置したり、施設長との面談の機会があり、悩みや改善点について直接話すことが出来る。	会議や申し送り等で職員からの意見や提案を聞き、運営に反映させている。職員専用の意見箱を設置する、個別面談でゆっくり話を聞く等の工夫がある。管理者は職員が意見を言いやすいように個別に声をかけたり場所を変えて話を聞く等努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合った研修会の参加を促している。また、個人面談や、各部署会議、親睦会を行い内部コミュニケーションを高めている。勤続3年以上の職員にはドイツや韓国への海外研修に派遣する仕組みがある。また、永年勤続者には永年勤続功労が実施。系列法人内に保育所を設置するなど、働きやすい環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には性別、経験、年齢など様々な職員が従事しています。調理やレクリエーション等で職員の能力を発揮してもらっており、個人の希望休日の調整や、急な勤務交代にも柔軟に対応している。	募集・採用に関して資質や人柄などを重視している。職員が得意分野を発揮できるよう配慮し、研修参加や勤務の調整も職員の希望をなるべく取り入れている。法人内に保育所があり、育児中も安心して仕事ができるようになっている。また勤続年数に応じた海外研修や表彰等の福利厚生も充実している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に『高齢者に対する尊厳』や『プライバシーの保護』、『高齢者虐待防止』などについて教育を実施している。時には外部機関に来ていただいている。	全職員が人権に関する様々な外部または内部研修に参加し、人権学習や高齢者虐待防止・プライバシー保護等について学び、一人ひとりを尊重する支援を行っている。研修記録や報告書も整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クリニカルラダーを活用し、目標に対して計画をたて、実施し、今後の課題を確認しながら力量をチェックしている。管理者は職員と面談し、本人の目標設定と行動計画を把握し、力量のチェックを行っている。又、本人の希望を取り入れながら、段階に応じた内・外部研修を進めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市認知症高齢者グループホーム協議会Cブロックに属し、月1回の勉強会に参加し、交流を図ると共に、サービスの向上に心がけている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人・家族の思いが汲み取れるよう特に時間をかけて、話をしている。相談に来る方々は、どうしていいかわからずパニックになっている方も多いため、話を聞きながら、「何を望まれているのか」を模索している。また、ご本人とよりなじみの関係を作れるよう担当制にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なのか」を検討している。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接している。また、一緒に日常生活を送り「できることを奪わない」「その人らしく」を大切に、共に支え合いながら喜怒哀楽を共にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気軽に話し合える雰囲気を作っている。また、その都度ご利用者様の状況を家族に相談し、ご家族の思いを尊重している。行事のお手伝い、他病院への受診の依頼や、入居者の発する想いをご家族へ仲介し、担当者会議にてご家族にも参加して頂きプラン作成に役立てている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教え子や部下友人などの面会や差し入れがあればご家族へ伝えたり、馴染みの方の面会時には、楽しいひと時を過ごして頂く様配慮している。行きつけの理容室やお墓詣り、仏壇掃除等はご家族に同行して頂いている。	利用者の馴染みの人や場について本人・家族から聴取して把握している。教え子や友人等の面会時は楽しいひと時を過ごしてもらうよう場所の確保やお茶や手作りおやつを出す等配慮している。運営推進会議に共に参加してもらう、御礼状を書く支援をする等、つながりを継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を常に観察し、職員間で共有化しながら、家事の分担、レクリエーション、体操、席順などの配慮を行っている。孤立しやすい入居者様には、職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり、契約終了になった入居者様にも出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問している。併設施設へ入所された方には、行事等でお会いする際声をかけ、関係継続を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に十分アセスメントを行い、日常のかかわりの中でも一人一人の想いや希望、意向を把握するため会話を多く交わし、職員間の情報を共有し、検討している。自分で訴えられない方に対しては、表情や状態を観察し、どのようなことを望んでいるのかを検討している。	日々の関わりの中から、思い、意向等を聞き希望に沿った外出やビデオ鑑賞等が行われている。又、自分で訴えが困難な方は、表情や行動等からニーズを見出せるよう検討し、常に利用者視点で取り組んでいる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、職歴や趣味・趣向、サービスを利用するにいたった経緯や今まで利用したサービス等について幅広く話を伺っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、生活リズム、過ごし方、心身状態の把握に努めている。その方の出来る事、解ることを常に観察し、今の状況を読み取り、対応をしている。日々の記録、会議や申し送りを通して情報を共有化している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員などで随時情報交換を行うと共に、月一度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行っている。ケアプランは3ヶ月から6ヶ月で更新時に担当者会議を行い、定期的に見直しをしている。月に一回のグループホーム会議や申し送りなどで意見交換を行い、ケアプランに反映させている。	月に1回のモニタリングを行い、スタッフ間での情報の共有を行っている。ケアプランは家族に出席いただき、要望を把握しケアプランに反映している。記録では、ケアプラン行動計画表を元に行い、職員全員に周知されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関する記録や療養記録があり、特記事項を記入している。また、月2回経過記録を書き、計画書の見直しの際にも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に合わせたプラン作成後、本人様に添った支援を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員らと運営推進会議や第三者委員などを通じて意見交換を行ない、地域との関係強化を進めている。町の商店への買い物、クリーニング店への同行、地域行事への参加、公民館、悠々クラブへの参加などで、地域の方と交流できる機会を確保している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が協力病院であることから、入居時に事業所の協力医へ変更する場合もあり、受診や定期検診を実施している。眼科、歯科、耳鼻科、物忘れ外来等、かかりつけ医が違う場合には家族が連れて行かれる。物忘れ外来には入居者の情報提供を定期的に行っている。	母体が協力医療機関である事もあり円滑な受診ができており、眼科、歯科は協力医療機関の往診等も行っている。家族が付添困難な場合は、スタッフが同行し主治医との情報提供や連携を図っている。又、家族にも受診後の経過等の説明も適切に行われている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を取っており、夜間もオンコールにて報告・指示を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行なっている。家族とも情報を共有しながら、退院後にも備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について話しています。また、ご本人や、延命についてもお話を伺い、アンケートに答えて頂いている。	契約時に重度化した場合の対応について説明があり、延命処置についての同意も交わしている。又、重度化した場合は、今後の方針を家族と話し合い、介護老人福祉施設等の住み替えも検討している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施している。また、常日頃より緊急連絡ルートの確認を実施している。随時、外部研修にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施、消防署の職員にも参加してもらっている。3月の訓練では、終了後に消防署員に設備を見ていただいて助言を仰いだ。	年2回、併設施設と合同で昼夜を想定された避難訓練を実施し消防署との連携も図れている。地域住民の連携では、運営推進会議の後に避難訓練等を実施し地域の民生委員にも呼びかけ参加がある。非常用備蓄は渡り廊下で続いている隣接施設に準備している。	配置場所・スペース等の課題もあるが、事業所内に非常用備品を準備して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は、目に触れないところに収納している。職員は、利用者様に対して馴れ合いにならないように、グループホーム会議やカンファレンスを通じて言葉遣いに関して確認を行なっている。また、個人情報の取り扱いやプライバシー保護について研修を行なっている。	記録物等は、目の触れない所に収納し施錠できるように配慮している。利用者の誇りやプライバシーに配慮しミーティングや会議等で周知し、内部、外部研修にも参加している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを話しやすい雰囲気を作るよう努めている。飲み物の選択、入浴、レク活動、その日の思いや希望をその都度うかがうようにしている。上手く言葉が出ない方へ複数個の選択肢を用意し発語しやすいような声掛けをしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動きを見て、居室で過ごしたい方、本を読みたい方、お話をしたい方、動きを把握して自分のペースで生活していただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しているが、個人で行きつけのある方は家族と行かれている。また、朝は、洗面所でお化粧をして頂き、洋服も好きなものを選んでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士にメニューを用意してもらい、主に厨房で作り、汁物やおやつ作りを入居者と行っている。行事食や寿司バイキング等皆様に楽しみにされている。好みのリクエストで昼食を作ったりもしている。一人ひとりの出来る力を生かしながら、調理、準備、片づけを利用者と一緒に行っている。	隣接の施設で主に作られているが、汁物やおやつ作り等は利用者と共に作っている。月に数回、リクエストの昼食や寿司バイキング等の行事食も提供している。献立を読み上げ視覚障害があってもイメージできるよう工夫している。らっきょ、金柑等の自家製の漬物等も利用者と準備段階から一緒に作っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量をチェックし、摂取量の管理を行っている。摂取量の少ない方にはこまめな声掛けや、好みの飲み物の提供、再度食事の声掛けを行っている。随時食事の形態や、トロミ等の検討を行っている。月1回の体重測定にて、体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	唾液を溜めやすい方、嚥下不良の方は食事前にも声掛けをし、義歯は毎日ポリドントにつけている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や本人のサインを観察して誘導している。また、入居前はおむつを使用し定期的の下剤を服用されていた方が、運動と食事の調整により自然排便が出来るようになった。布パンツとパットで過ごされるようになり、便失禁もほとんどみられなくなった。	排泄表を元に個別の排泄サイクルを把握し自立支援を促しながら個室で対応するなどプライバシーへの配慮も行われている。又、運動や食事等の調整を行い多角的な支援で安心、安楽な排泄に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて、一人ひとりの排泄状況を把握し、飲み物の工夫をしたり、散歩を促したり、起立訓練を行い自然に排便できるよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や好みの時間を把握し入浴の時間を考慮し、入浴の提供を心掛けている。希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴拒否の方へは声掛けの工夫やタイミングを考慮したり、隣接施設の温泉を利用する等気分転換に努めている。	希望があれば午前、午後、いつでも入浴できる環境を整備し、利用者の生活習慣等にも配慮している。又、入浴拒否がある方には、家庭菜園等の役割を果たした後に入浴するなど、個別での工夫もなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考慮・把握して、適度な午睡や運動・就寝の支援を行ない快適な生活リズムができるようにしている。不眠傾向のある方は、入床時全身マッサージを行ったり、冬場は足浴などで対応している。夜間徘徊のある方へは温かい飲み物の提供や、一緒に過ごすなど安心して頂ける工夫を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報提供表をファイルに入れていつでも管理できるようにしている。予測される副作用については確認すると共に、薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知させている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の準備、片づけ等その方の出来る事を探し、役割を持って頂いている。好みの音楽を聴いて頂いたり、一緒に歌ったり手芸、読書等今までの嗜好を継続して頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物洗濯干し等希望に沿って外出しています。月に1回以上は遠方へ外出計画を立てて出かけています。ご本人の希望で自宅へ仏壇を拝みに行かれたり、地域のゆうゆうクラブへ参加され月1回地域の方と交流されている方もおられます。	近隣では散歩、買い物等希望に沿って外出でき、庭園ではいつでも庭弄りができたりと気軽に出来る環境が整備されている。又、月に1回は、外食も兼ねて遠方に外出したり、地域のゆうゆうクラブへ参加されるなど交流も行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。買い物の際には支払いを自分たちで行なえるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、かけていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、家族や友人とコミュニケーションを図っている。贈り物が届いたらご本人にお電話して頂いたり、お礼の葉書を出すなど支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた明るい施設であり、落ち着いた雰囲気の木調のドアになっており、安心して出入りできる空間になっている。温度・湿度にも注意し、空調や加湿器を使って快適な空間の維持に心掛けています。壁には写真や絵を飾り季節の花を飾っている。	緑に囲まれた明るい空間で落ち着いた木調の温もりのある造りになっている。又、居室内にトイレも設置され、プライバシーにも配慮され、居室も広く安心して過ごせる空間が作られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のひざ掛け、廊下のソファ、リビングのソファなどで思い思いに過ごされている。廊下を歩かれ疲れられた際には、ソファに座ってくつろがれている光景も見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで使っていた生活物品・写真などを持ってきて頂き、少しでも安心して過ごせる、自分の居場所だと思っただけのような空間になるように配慮しています。ベット以外でもリラックスできるイスやソファも置かれ本人の好みに環境を整えている。	家族や利用者と相談しながら、馴染みのある家具や飾り等を持ち込まれ利用者の個性ある居室になっている。利用者にとって自分の居場所として居心地の良い空間になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせた家具や物品の配置を行い、手すり等を利用し出来るだけご本人の力で行動できる環境を作っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない